

# 会 議 録

## 1 会議名

第6回上越市総合計画審議会

## 2 議題

- (1) まちづくり市民意見交換会（2巡目）の開催結果について
- (2) 基本構想及び基本計画について
- (3) 重点戦略についての分科会

## 3 開催日時

平成26年9月1日（金）午前10時から正午

## 4 開催場所

上越文化会館 4階 大会議室

## 5 傍聴人の数

2人

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：濱祐子、佐藤芳徳、志村喬、渡邊隆、蘆屋秀幸、鈴木興次、秋山三枝子、荒井隆、浦野憲一、大嶋慶子、荻谷賢一、笹原茂、田中弘邦、中條美奈子、吉村久子、岩崎康文、上野弘、上原みゆき、御所窪賢一、松縄武彦、松本美鈴
- ・事務局：川上企画政策部長、南企画政策課長、大島副課長、青山係長、石黒係長

## 8 発言の内容（要旨）

- (1) 開会
- (2) 挨拶

### 【佐藤会長】

第6次総合計画も形が整ってきた。今後は計画の完成度を高めるということが必要であり、そのためには漏れや欠落がないようにすることが重要になる。本日は分科会方式をとって意見を伺いたいと思うので、よろしく願いしたい。

- (3) 議事

○議題(1)まちづくり市民意見交換会（2巡目）の開催結果について

**【事務局（石黒係長）】**

資料1により説明。

**【佐藤会長】**

意見交換会を終えて、計画に欠落していたと気付いた部分などはあったのか。

**【石黒係長】**

市民の皆さん各々の関心のある点について意見や質問をいただいたが、欠落していた部分はなかったと考えている。

**【佐藤会長】**

細かい点については、事務局の方で計画の中に盛り込み検討いただくということとしたい。他に意見がなければ、市民意見交換会の結果について審議を終了してもよろしいか。

**【全委員】**

了解。

○議題(2)基本構想及び基本計画について

**【事務局（石黒係長）】**

資料2により説明。

**【佐藤会長】**

28頁以降の目標は言葉や数値を入れるとのことだが、全ての基本施策ごとに設定するのか。

**【石黒係長】**

目標は基本施策の単位で設定する。あまり細かい内容ではなく、基本施策に対応し、施策の達成状況を確認できるような主だった目標を設定する予定である。数値化できない場合は、「いつまでにどのような状態を目指す」など、数値と言葉を組み合わせる表現したい。

**【佐藤会長】**

具体的な数値で表せない目標もあると思うので、うまく組み合わせる目標設定してほしい。

**【秋山委員】**

基本施策に対し提案を行うスケジュールについて、次回審議会までに委員が各自素案を読み込み自分の意見をまとめることも必要であるが、その他関係部署に意見

を聴き素案に反映させるとなると時間が必要であると思う。9月末を目途に事務局でまとめていくということか。

**【石黒係長】**

9月下旬開催予定の第8回審議会までには、素案についてある程度の方向性を示したいと思う。次回の第7回審議会で計画の素案について審議いただき、9月中旬頃にまとめていただいた意見を寄せていただき、9月下旬には整理をするというスケジュールである。時間のない中、大変恐縮である。

**【佐藤会長】**

委員の皆さんから細かい部分を検討いただくとなると時間が必要であるので、ご配慮いただきたいと思います。

**【浦野委員】**

目標に数値や文言を入れるとのことだが、北陸新幹線の停車数を踏まえた目標設定はできているのか。

**【石黒係長】**

目標については、現在担当課と整理中である。目標は、市の施策として達成できるものを設定したい。

**【浦野委員】**

先日、市議会議員の意見交換会に出席した際、高田公園の今後の在り方など、上越市の目指すところについて質問したところ、明確な回答が得られなかった。そのような中で、9月末までに目標数値を入れるのは難しいのではないか。

**【石黒係長】**

総合計画は市の総合的な指針であり、施策の方向感を示す役割を持っている。計画の中に、「いつまでに何をつくる」などと明確に述べられるものもあるが、述べられないものもあるため、詳細については個別の計画に委ねるものとしたい。

**【佐藤会長】**

基本構想及び基本計画は、これまでいただいた意見を踏まえて事務局でまとめたものであり、目標など細かい部分が設定された際にまた詳しく検討いただくことが大切である。継続的な審議とすることによろしいか。

**【全委員】**

了解。

○議題(3)重点戦略についての分科会

○「暮らし」分科会

【中條委員】

少子化対策などが見えてこない。子育て世代を応援するなど力を入れているところが見える方が良い。

【松本委員】

集落づくり推進員を設置し、中山間地域の見えない部分がクローズアップされるのは良いことだが、その先が見えてこない。方向性が見えるようにしてほしい。

【吉村委員】

高齢者の社会参画が必要である。

【大嶋委員】

健康づくりに関して、介護予防など高齢者に目が行きがちになっている。総合的な健康は、子どもの時期からが重要になる。

【浦野委員】

集落づくり推進員の活動がPRされていない。上越には良いところがたくさんある中で、13区を含めた地域おこしのPRを行うことで、地域の頑張りに目を当てていただきたい。

【荒井委員】

市街地では、隣近所に関心がなく、付き合いたくないとの思いから、助け合いの気持ちが薄い。町内会や地域協議会を積極的に活用すべき。

【松本委員】

地域に関心を持たないのは、核家族化が進んでいるからであり、高齢者に気遣いのできない子どもが多い。親世代が地域に関心がないと、子どもも同じくなくなってしまふ。地域行事など若い人にも責任を持たせることが必要である。

【大嶋委員】

子育ては親だけではなく地域の協力も必要である。子どもが子ども会に入りたいといっても役員が面倒などの理由で子ども会やPTAに入らない人もいる。

【中條委員】

若い人が減り、子育てをすること自体が少数派になってきている。以前は、放っておいても親になり、地域社会に帰っていたが、今はそうでない。そのため、子育て世代を応援する仕組みが必要。子育てサークルなどの活動をしている若い人達は、

仲間のために何か取り組む精神を持っており、そのような人が地域に関われるようにすることが大切である。働きながら子育てをし、地域に貢献することは大変なことではないと分かってもらえる仕組みが必要である。

#### 【濱副委員長】

小さいころから地域と関わりがある子は、自分がしてもらったことを地域に返そうと思える。そうなれば、子どもは出て行かなくなるのではないか。「夢は牛のお医者さん」という映画が理想だと思う。大事なことは「子どもは地域で育てる」ことであると思う。

#### 【浦野委員】

敬老会の助成も大事だが、子どもへの支援も必要ではないか。

#### 【秋山委員】

イメージ（例）にネットワークの強化があるが、誰が推進するのか。行政には全分野対応の窓口がない。本当に困ったときに動いてくれる部署がないと感じる。どの部署がネットワークの強化を推進するのか気になる。13区にある住民組織のような団体が28区に整備され、困ったときに対応できるようになるのが理想だと思う。こういった住民組織が若い人の仕事おこしにつながるとよい。

#### 【渡邊委員】

暮らしには、人がポイントになる。人生のライフステージに合わせて、教育・健康・福祉でまとめていただきたい。

子育ての問題、若者が教育を受ける問題、社会に出て高齢者になるまでの健康の問題、高齢者以降の福祉の問題をクロスさせた方が分かりやすい。

### ○「産業」分科会

#### 【笹原委員】

農商工連携が大事である。担い手として、若い人も重要であるが、定年した人も含めて考えるべき。定年して農業に初めて取り組む人が担い手になれば、産業間で担い手の循環が図られる。定年したばかりの人は農業ではまだまだ若い。

#### 【岩崎委員】

地場産業の発展が大切である。地元企業を優先して支援することで、地域経済の発展につながる。全国的な大企業は浮き沈みが激しいため、地域に根差した企業に雇用が生まれなければならない。

観光振興で雇用と産業を生むためには、一過性ではなく長続きするものが必要である。

#### 【田中委員】

市は計画をつくって終わりで、計画を具体化できていない。具体的に何をすることが欠け、何もできない。

通年の観光の中心に据えるものをつくるため、商工会議所とコンベンション協会と市と一緒に取り組んでおり、春日山のジオラマ作成や春日山周辺ルートの研究、新幹線をいかした全国的な体育大会の開催など、着地型の観光を進めるとともに、上越の名産や食べ物の開発などを行っている。

地場の企業を良くするため、今の技術にとらわれずに、ニーズや動向に合った新しい技術の開発や起業の支援が必要である。

また、定年後、農業を勉強すると面白いし、市場に出荷すれば収入にもなる。市が支援し、観光と結び付けて他から人を呼び込むことをしてはどうか。

観光5か年計画がいかされていないため、どう進めるかが重要である。総合計画も計画を網羅してきちっとした方向付けをする役割がある。美辞麗句を並べるのではなく、計画を進めてもらいたい。

#### 【青山係長】

市としても推進体制をつくり、きちんと実践していかなければならない。また、企業や市民との協力体制づくりも必要である。

#### 【御所窪委員】

通年の観光ができていないことが当市の欠点である。上田市の真田を見たら当市に来て上杉を見るなど、広域連携が重要である。

お土産品は、新しいものの開発を進めているが、昔からあるものも大切にしてもらいたい。富山のますずしの工場見学のように、何を言わなくても観光バスが来る場所をつくることも必要である。

市内の企業を回り、若手の人材育成が一番大切であると感じる。市としては、企業に支援金を出したり、国等の支援施策をPRしたりすることが必要である。

#### 【荻谷委員】

少子高齢化が避けられない中で、これだけの物をつくって本当に運営していけるかが心配である。

春日山の観光も結構であるが、13区に大なり小なりある観光資源をどのように

つなげるかが課題である。新幹線駅前に他から出店したものができて地元が衰退してしまう。

商工会と商工会議所、13区をつないでいくことが必要である。

現在、商工会議所と商工会で協議会をつくり、連携を進めている。商工会はスケールも小さく遅れもあるため、商工会議所といろいろな形で話し合いをし、知恵やサポートを受けてともに歩んでいかねばならない。

**【青山係長】**

まちの総合力を高めるには、全体のつなぎ合わせが重要であり、総合計画において盛り込んでいきたい。

**【岩崎委員】**

上越市内での交流が大切である。教育でも子どものうちから13区を含めて全市のいろいろなところを見て、上越全体を考えられる人材を育成することが大事である。

**【御所窪委員】**

総合計画については、全体的に市民のみなさんが具体的なイメージを持ちにくい内容になっている。

**【青山係長】**

総合計画は8年間の計画で方針を示すものであるため、具体的に示しにくい。具体的に示せなくても例示したい。

**【田中委員】**

これだけはやったという実績を上げてもらいたい。共通認識で進められるものを具体的にうたって、総合計画で何ができるのかを大筋でも示せばはっきりする。一番大事なものだけでもきちんと方向付けをしていくことが大切である。

○「交流」分科会

**【松縄委員】**

スポーツ振興においては、ハード整備も大切であるが、ソフト面の仕組み・仕掛けづくりも大切である。

市民は、離れた地域で行われているイベントには関心・興味がない。まず、域内での交流を促進するために、各地で行われているイベントなどの取組を有機的につなげていく必要がある。

教育委員会にスポーツコンベンション構想を要望している。例えば、十日町市のスポーツコミッションの取組のように、大会を誘致し、観光、商業、交通が一体となって取り組み、地域の振興、経済の活性化につなげる必要がある。

#### 【志村委員】

「広域的な商業吸引力の向上」については、すでに上越 I C 周辺に商業施設が集積していることから、既存施設の吸引力を磨くことを考えるべきではないか。

ハード整備も必要だが、例えば、十日町市の大地の芸術祭のように人を呼び込むソフト的な取組も必要である。「まちの力」に「地域資源全般」とあるが、上越市の場合は「雪」だと思う。

移住には、教育と医療が重要となる。ハイレベルな教育と医療が提供できることを核にしたほうが全国的にも勝ち抜くことができると考える。

#### 【上野委員】

糸魚川市や妙高市などとの連携を考えたときに、新たな交通システムが必要だと思う。例えば、モノレールを通したり、ほくほく線を妙高まで延伸することを考えてはどうか。そうすることで面的な広がりができる。

地域をつなぐ公共交通網を整備することで、人が自発的に動いてくれるようになるのではないか。

#### 【上原委員】

高田や直江津、各区で地域資源を活用した取組が行われている。既存の取組を磨き上げ、地域の魅力を高めていくことが大事である。

#### 【鈴木委員】

長野は善光寺、石川は兼六園があるが、上越は思い浮かぶものがない。上越市には高田城や春日山城跡があるが、上越市の核となる観光施設として手を入れる必要があるのではないか。

まずは地域内（市内）の交流を活発化させることが必要であり、そのためには、公共交通の利便性をさらに高める必要がある。

#### 【蘆屋委員】

ハード整備も大事だが、ソフトの取組も大事である。まちづくり意見交換会では、人口減少対策に関する意見が多かったことから、「移住」の取組も必要である。

また、「歴史・文化資源をいかした誘客促進」とあるが、「食」や「遊び」も誘客促進につながる。市外だけでなく市内の交流も大切である。

## ○分科会の意見報告

### 【佐藤会長】

各分科会での意見について、事務局から報告をお願いしたい。

### 【石黒係長】

「暮らし」の分科会では、生まれてから老いるまでのライフステージにおいて、教育、健康、福祉を切り口とした取組や繋がりを補っていくという考え方が示された。

また、いかに市民の暮らしの中で地域との関わりをつくっていくかが重要であり、その仕組みづくりに力を入れるべきであるとの考え方が示された。

また、ネットワークに対応した総合的な窓口の必要性や、市街地と中山間地域のつながりが必要で、互いの状況を知ることが大事であるとの意見が寄せられた。

### 【青山係長】

「産業」分科会では、農商工の連携や地域内連携の視点が重要であるとの意見があった。

雇用の面においては、若年層の雇用も大切であるが、高齢者の活用という視点で、高齢者が活躍できる場を設けることが必要であり、若年層の人口が減少する中で企業の従業員への技術継承など、様々な人材育成が必要であるという意見が寄せられた。

また、重点戦略はつくるだけでなく、実施していくための推進体制の構築も重要な視点であるとの意見や、産業、農業、観光など様々な分野の広域連携では、市外に目を向けながら市内に人や金を呼び込む仕掛けが必要であるという意見が出た。

### 【大島副課長】

「交流」文化会では、ハード整備も重要だが、ソフト整備も大切であり、具体的には当市にある食や歴史、文化などを活用して雪国文化を発信すべきという意見や、周辺自治体である妙高や糸魚川、佐渡などとの連携強化を図っていくべきとの意見が寄せられた。

他にも、市内では市民活動が活発で、13区にもよい資源があるので活用すべきとの意見や、観桜会などのイベントにおいては、もっとPRをして交流を促進すべきであるとの意見、スポーツイベントはスポーツだけでなく、経済活動を活発化させるためにも有効であるという意見が出た。

また、市外との交流を高めるためには、市内の交流の活発化に向けた施策が必要

であり、公共交通網が弱い側面もあるため、ハード・ソフト両面から整備をしていくべきであるとの意見が寄せられた。

#### 【佐藤会長】

それぞれの分科会を少しずつ拝聴したので、意見を述べさせていただきたい。

まず「暮らし」の分科会について、地域づくりは人づくりそのものであるという視点から、「暮らし」のイメージの例はネットワークづくりが中心であるという意見が寄せられたが、この中にいくつかまとめられる項目があると思うので検討して括っていただきたい。

何をキーワードとして当市が発展するのかを考えたとき、教育が一つのキーワードとなり得ると思う。若い人への教育を通じての住み続けたいまちの実現も考えられる。

また、ラインやスカイプなど情報技術を取り入れたネットワークづくりが今後必要になってくると思うので着目してほしい。

イメージの例にあるネットワークはそれぞれ意味が微妙に違うので、それぞれを取り入れてまとめていただきたい。

「産業」分科会について、戦略の概要にある産業創出が一番重要であり、新しい産業を取り入れていただきたいと思う。

地勢エネルギー資源と記載があるがこれは自然エネルギーとすべきである。

また、学生と地域企業のマッチングとは、雇用のバリエーションとしてまとめてよいと思う。雇用は、若者と高齢者のバランスが大事であり、後継者支援・育成も重要な視点であると思う。

「交流」分科会については、なぜ交流するのかという目的が非常に大切で、新幹線や道路は手段にすぎない。文化の同じ人と異なる人の交流という視点で考え、異なる文化の人との交流は非常に大切である。異なる文化については、地域内、国内、国外三つの視点からの交流を分けて考えると分かりやすいと思う。

以上であるが、ほかに補足や質問、意見等がなければこれで審議を終了したい。

#### 【全委員】

了解。

#### 4 その他

#### 【事務局】

事務連絡。

(9) 閉会

9 問合せ先

企画政策部企画政策課企画政策係

TEL : 025-526-5111 (内線 1452)

E-mail : [kikaku@city.joetsu.lg.jp](mailto:kikaku@city.joetsu.lg.jp)

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。